

スプリットからトロギールへ赴く途中サロナ市でローマ時代の遺跡である、円形劇場を見学した。アンフイーシアターと呼ばれている。最近公開されたばかりの遺跡で、日本人観光客としては我々が一番乗りであろうと添乗員は言っていた。未だ発掘作業が続けられていた。



今日の俳句

・初物の ローマ遺跡に 春の風

4月19日(火)

スプリットはクロアチアのリゾート地であり、漁師町でもある。この町で宿泊したが街中は駆け抜けるだけであった。それでも朝出発までの間、しばし散歩していくつかの光景をカメラに収めた。



写真左は港の風景

写真右は釣り人が用意していた餌のゴカイ。

今日の俳句

・釣り人の 離合集散 ごかい知る

スプリットには城郭に囲まれた旧市街が昔の面影を留めて現存する。朝ホテルの周辺を散歩してみた。リゾート地のこの町のヨットハーバーには沢山のヨットが係留されていた。教会も沢山あるようだが、写真の教会の名前は判らない。



今日の俳句

・春風を はらんで帰る ヨット基地

4月19日(火)

スプリットからドブロブニクへ長駆227kmをドライブの途中、ボスニア・ヘルツェゴビナ領内で小休止した。



地図からも判るようにクロアチアは海岸線に沿って細長い国である。紫色が国境線であるが、ドブロブニクはボスニア・ヘルツェゴビナ領によって母国本体から分断された飛び地になっている。

このボスニア・ヘルツェゴビナを通過するためには、入国と出国の手続きを検問所で行わなければならない。

運転手がガソリンを補給するためにこの地で小休止したのには訳があった。物価が非常に安いのである。我々もガソリンスタンドに併設されたディスカウント・ショップで買い物をしたが、クロアチア国内よりも二割から三割値段が安いことを知った。

国の経済力の格差が物価に如実に現れていることを実感した。



4月19日(火)

夕刻ドブロブニク市へ到着した。この市は複雑な地形をしている。観光案内所で入手した地図を掲載しておこう。

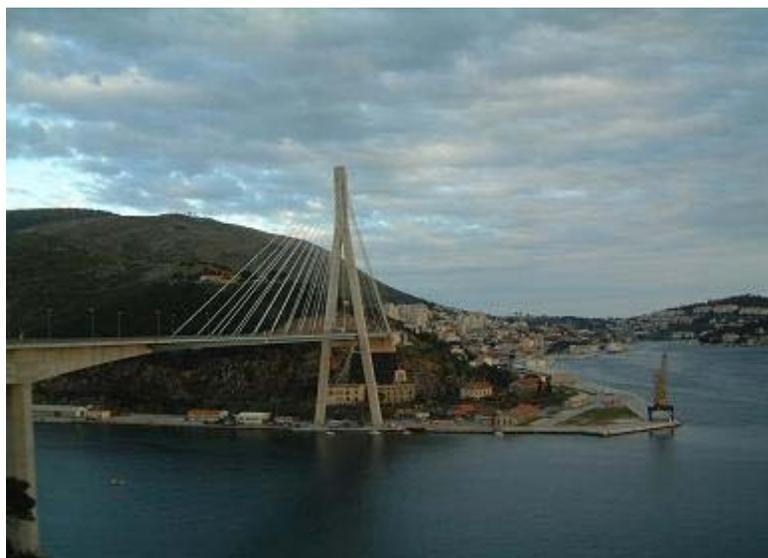
写真左はドブロブニク市の全体図である。この図の右手下方に茶色く色のついている箇所が旧市街地で町全体が城郭都市になっていて町全体がユネスコの世界遺産に登録されている素晴らしい景観の保存されている地区である。

写真右は旧市街の見取り図である。

ドブロブニクにチトー大橋というのがあり、ドブロブニク市の名物の一つになっている。ユーゴスラビアの元大統領の名前を取って付けられた。既述の地図の左手上方にかかっている橋が写真の橋である。

チトーにはクロアチア人とスロベニア人の血が流れている。西洋史辞典・東京創元社刊・によればチトーは次のような人物である。

1892-1980 本名Josip Broz ユーゴスラビア大統領、共産主義者同盟議長、連邦幹部会議長、元帥、第一次世界大戦に従事し、ロシア軍の捕虜生活を経て20年に帰国して共産党に入党。革命運動により数次にわたり投獄されたが、1935-36年にはモスクワに亡命。37年ユーゴスラビア共産党書記長に選出され、第二次世界大戦中は対ドイツパルチザン闘争を指導、43年国民解放臨時政府首席となり、45年以降首相、軍最高司令官、国防相を兼務し、46年人民共和国成立後、53年大統領に就任。47年にベオグラードを本部に結成されたコミンフォルムで指導的役割を演じたが、その民族主義的傾向からスターリンと対立してコミンフォルムから追放、それ以降は非同盟・積極的中立主義の立場で自由世界とも接近し、スターリン死後は対ソ関係の正常化にも努め、社会主義運動と第三世界に大きな影響力を發揮した。国内の民族的調和も進めた。



↑ 旧市街地への入り口近く

← チトー大橋

ドブロブニクの旧市街を散策した。頑丈な城壁で囲まれた市街地は中世の面影をそっくりそのまま現在に伝えている。典型的な城郭都市である。

ドブロブニク旧市街内を散策した。写真に示すのは旧市街での点景である。



城郭内の総監の館を見学した。



写真上の左右は何れも総監の館の  
一階広間である。



写真下左は総監の胸像  
右は総監の館を出たところである。

4月20日(水)

午前中、旧市街を見学し且つ散策した後、城壁の上を一周した。



写真上左は城壁登り口近く  
写真上右は城壁の見張り台

写真下の二葉は城壁から見た  
旧市街の点景である。

ドブロブニク旧市街は城砦都市であり、自己完結型の都市として造営された。今もその名残を十分に留めていて観光客の鑑賞に耐えている。